

重点施策「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進				評価実施者		所 属	社会教育課
				職・氏名		課長 景由隆寛	

重点 施策 の 概 要	目 的	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、成果を生かした生涯学習を推進するため、生涯学習情報をインターネット等を通じて発信するとともに、学びの仲間づくりや成果発表の機会の拡充など、子どもから高齢者まで生涯各期の生き生きとした生涯学習活動を推進します。					
	今年度の 主要事業	①「子どもの育成」をテーマとした地域の仲間づくりの推進					

事業の 目 標 と 実 績	区 分		単位	H23	H24	H25	特記事項	
	1	青年活動参加団体数	目標 実績	団体	10 11	13 12		13 13
	2	60歳以上の人口に対する福寿大学生の割合	目標 実績	%				60歳以上 H23 16,138人 学生145人 H24 16,352人 学生144人 H25 16,463人 学生128人
	3	福寿大学参加者の平均出席率	目標 実績	団体	65.7 60.7	65.7 65.9	65.7 65.2	
	4	ツイッター、フェイスブックの顧客数	目標 実績	人	300 180	500 447	500 702	H23 ツイッター 150、フェイスブック 30 H24 ツイッター 252、フェイスブック 195 H25 ツイッター 427、フェイスブック 275
	5	総合福祉センター・中央公民館の利用延人数	目標 実績	人	81,134 73,759	81,134 72,594	81,134 58,195	
	6	地域や学校との連携による地区育成会事業数	目標 実績	回			7 2	

事業の分析 効果の検証	[事業の分析]	西地区青少年育成会は3泊4日の通学合宿、中地区青少年育成会は第一小学校児童との集団下校訓練を実施した。全市的に同じ事業を行うのではなく、各地区の特徴を生かした事業を目指したことで、それぞれの地域資源の価値を住民も教育委員会も気づくことができた。
	[効果の検証]	「子どもの育成」というテーマは、各世代をつなげやすく、理解も得られやすいことがわかった。各事業を通じて、地域住民が持っている「子どもを守っていききたい」という思いが、学校や保護者に伝わっている様子がアンケートなどでも見られ、「子どもの育成」をテーマにした事業展開は、地域の仲間づくりを進めるために有効であると考えます。
課題	事業を実施するまでの準備期間が、仲間づくりに最も大切な時間である。西地区通学合宿は、準備期間が短く、事業に向けての思いに差があった。目的と目指すべき形を、参加する地域住民が共有できるよう、準備期間中の仲間づくりを丁寧に進めていきたい。	

評価	A	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 成果・課題がはっきりとわかり、今後の青少年育成会の進め方も見えてきたので、期待どおりの効果があった。
		評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 地域の特性を生かした活動を通じて、地域の仲間づくりを進めていく目的の達成ため、次年度については事業の見直しはない。

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	今年度は可能性の検証の年であったが、青少年育成会を核とした地域づくりが期待できることから、次年度以降は、市内7地区青少年育成会が、「子どもの育成」をテーマに地域の特性を生かした事業を通じて、地域コミュニティの強化につながるよう支援をしていく。また、総合福祉センターという「場」をなくした後の生涯学習活動について検証しつつ、今後の方向性について継続検討していく。 ☒ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	通学合宿については、先生、地域の方、福寿大学生が協力しているようですが、國學院の学生も新十津川で通学合宿に協力しています。地元ですので声をかけていただければ協力したいと思います。
---------------	---